

<川越市>

## 【感情に任せて市民を呼び捨てる川合善明市長！】

新井喜一川越市議「セクハラ疑惑」に対する本紙報道を

感情的に冒瀆する川合善明氏に「公式な謝罪を要求する！」

皮肉なことに言語道断の市政の私物化を川合善明市長自身が公言したも同然だ。同氏による「川合よしあきブログ」(2018年10月8日投稿)のことである。今後、川合氏が削除しても証明できるように以下全文を転載する。

今日は、1日完全に業務 Off です。

川越市議会議員の議会事務局職員に対するセクハラ・パワハラ事件は、議会が設置した第三者委員会が先週末に初回の会合を開き、今後調査が進んでいきます。市が行っている全庁的な調査も現在進行中です。

遺憾なことに、被害にあった女性職員が記者会見で被害事実を公表した翌日から、新井議員に次いで議員在職が長く、議会運営委員長の要職にある小林薫議員が、自身のブログに、「今回の（被害事実の公表による）告発は何者かの陰謀である」とか「新井議員ははめられたのだ。」という趣旨の書込みを何度か繰り返し、議長から注意を受けた（と聞いています）にもかかわらず消去せずにいます。

それと、被害事実の公表から1週間後には「行政調査新聞」が、小林薫議員のブログの主張と平仄を合わせたかのような記載をした印刷物を川越市議会の事務局に置いて行ったりウェブサイトのホームページに掲載しています。

行政調査新聞の松本や大山は、だいぶ以前から、小林薫議員の議員控室に頻繁に来ているとの情報があります。人物の特定はできませんが、行政調査新聞のようなものを使って問題をすり替えようとする人物がいることは、川越の恥です。

同ブログの文面には、まさに川合善明市長の反市民、反社会的な人格が顕現しているといつてよい。その問題点を検証してみよう。

## 「セクハラ・パワハラ事件」？

### 法も無視して加害者を断定する驚きの独裁市長！

川合市長は同ブログで「川越市議会議員の議会事務局職員に対するセクハラ・パワハラ事件」と書いている。まずこの時点で、第三者委員会の設置など茶番劇に過ぎないことを川合市長自身が認めているも同然だ。

第三者委員会の調査とやらも訴訟も結果がみえていないうちから、なんと市長自らが「事件」と断定しているのだから国策裁判も顔負けの独裁ぶりである。

世上を騒がせるような出来事を俗に「事件」と呼ぶことはあるが、通常、「事件」とは「法的に立件、訴訟となったものを指す。」そうでなくとも、川合市長の同ブログでは「被害にあった女性職員」などと一方の当事者を被害者と断定した文脈で「事件」と呼んでいるのだから、これは重大な問題である。

川合市長は「第三者委員会が先週末に初回の会合を開き、今後調査が進んでいきます。市が行っている全庁的な調査も現在進行中です。」などと報告しながら、同じブログのなかで「女性が被害者で市議が加害者」と決めつけた。

市長のブログだから当然「公言」である。しかも本件の場合、他方の当事者とされた「川越市議会議員」が新井喜一市議であることは、すでにマスコミに報じられているのだから、川合市長自ら新井喜一市議を公然と「犯人呼ばわり」したことになる。

川合市長の自家撞着（じかどうちゃく＝同一人物の言動や文章が前後で矛盾すること）はいまに始まったことではないが本件川合氏の暴言は、これだけでも「百条委員会」が設置されなければならないほど反社会的だ。口を開けば「私は弁護士」とのたまう川合市長だが、このような暴言は弁護士としての倫理規定に反する。

ただそれよりも重大な問題は、このような暴言をいくら並べても許されると思い込んでいる川合市長の市政の私物化である。市や市民を「自分の支配下」だと思っていなければ、このような異常な発言を市長の名のもとに公表できるはずもない。

## 川合市長の本紙に対する侮辱発言への「謝罪」を要求する

これまで本紙に多くの問題を追及されてきた川合善明氏とすれば、本紙の存在は「目の上のタンコブどころか天敵」なのかもしれない。川合市長にとって、本紙が単なる小者で相手にするような価値もないというならば、本紙社主の私や記者を名指しで「行政調査新聞の松本や大山は」などと呼び捨てにするはずもなかろう。

逆に、本件「セクハラ疑惑」の裏事情について、本紙がよほどの核心に迫ったが故に、川合市長の焦りと逆恨みがありありと見える物言いである。

川合市長のブログとは、いわゆる民間個人のブロガーのそれではないのだ。

露悪的な言動で世の不興を買うことが持ち芸にさえなっている、あの麻生太郎大臣でさえ自分の部下以外を公然と呼び捨てになどしない。

川越市民であり有権者でもある本紙社主である私を呼び捨てにするばかりか、本紙の存在自体も「行政調査新聞のようなもの」などと侮辱しなければ気が済まないほど、川合善明市長と「その一派」は本件の新井市議を巡って「思惑通りに行かなかった」ことに腹を立てているのだろうか？ そうだとすれば、これほど横暴な市長と政権が見過ごされているのは全国でも川越市だけではなかろうか。

川合市長には幸運なことだが、市長のこれらの問題行動が全国ニュースで報じられないのは、小者を取り上げるほどマスコミは暇ではないからだろう。

一方、新井市議のセクハラ疑惑第一報で「誰かを頂点とする一派」に踊らされてしまったマスコミ各社は、全ての闇が照らされる時、それらの派閥に対して一斉に追及を開始するかもしれない。

本稿の最後になるが、「本紙は川越市長・川合善明氏に対して前掲ブログでの本紙に対する侮辱発言を、同ブログ上において撤回し謝罪することを要求する。」謝罪も出来なければ、川合善明市長こそがまさに「川越の恥」であると証明されよう。

**昨日の夕刻、本紙に速報が入った。**

**新井喜一市議が、10月12日付けで議員辞職を届け出たという。**

本件セクハラ疑惑で世上と近親者、支援者を騒がせたことに対する新井氏流のケジメであって勿論、無実のセクハラ疑惑に対しては訴訟となっても闘う意思であるとの情報が、新井氏の支持者から得られた。新井喜一氏の端然たる姿勢は、激昂しては前後不覚に市民不在の悪心を曝け出し人を見下す、どこぞの市長さんよりも格段に誇り高い。